

## 平成16年度指導資料Ⅰ

### 「児童生徒の心に響く道徳の時間の指導～かけがえのない命～」について

平成16年度指導資料「児童生徒の心に響く道徳の時間の指導～かけがえのない命～」を作成するに当たって、各項目について、次のことを基本的な事項としました。

#### 1 主題名及び内容項目について

主題名は指導内容を端的に表現したもの、あるいは資料の内容を表したものが望ましいと考えます。特に、児童生徒の実態に十分配慮し、興味深く、ねらいの達成の一助となるものが望まれます。主題名と並んで示す内容項目は、学習指導要領に示された内容です。

#### 2 資料名とその出典について

道徳の時間の指導において、資料の選定は重要な意味をもちます。どんな資料を選定するかは、最終的には指導者個々の判断によりますが、主題のねらいを達成するために有効な資料の選定に努めることが望まれます。

本年度は、指導資料においては、文部省の読み物資料「小学校道徳の指導資料とその利用5」「道徳教育推進指導資料（指導の手引き）3」等から、生命尊重にかかわる資料を編集しました。

#### 3 主題構成表について

主題構成表は、「何を、何のために、どのように進めるのか」という道徳の時間の指導のベースになるものを明らかにし、本時のねらいを明確にするものです。

これが弱いと展開も曖昧になり、児童生徒が、人としての生き方を自己の内面に自覚していく時間にはなり得ません。どの指導事例も次の5点を、指導者の基本的な構えや手順としてまとめました。

ねらいとする道徳的価値の分析

- ・内容項目には、複数の道徳的価値が含まれていますので、どの価値で行うのか焦点化を図ります。
- ・人として生きる上で、その価値にどんな意味や必然性があるのかを指導者自らの言葉で考え、価値の本質をつかみます。
- ・この時期の児童生徒にとって必要なことは何かを具体化します。  
児童生徒の実態・意識の要因の把握
- ・具体的な行動から、まずできていることに着目し、それをよさとしてとらえます。
- ・ねらいとする価値から児童生徒の行動の奥にある考え方や感じ方を多面的に考えます。
- ・そうした考え方や感じ方をこの時間にどこまで深めていくかを考えます。

資料の分析

- ・展開を考えながら読むのではなく、資料の主人公の生き方の真のすばらしさは何かを考えながら読むようにします。
- ・人としての弱さやもろさとすばらしさを兼ね備えた主人公の生き方を読み取ります。
- ・資料の登場人物等の言動は、主人公の言動と異なることが多くありますが、こうした言動は主人公の心の分身であるととらえて読むようにします。
- ・ねらいとする価値から児童生徒の実態をもとに資料の扱いどころを決め出し、どのように活用するのかを吟味します。

本時のねらい

- ・ , , を踏まえ、焦点化した価値をもとに児童生徒にどんな考え方や感じ方を育てるかを明確にします。その際、学年の発達段階を考慮して設定します。

- ・表現方法は、ねらいを明確にする意味からすっきりとしたものにします。  
展開の構想・基本発問
- ・基本的な学習指導過程に当てはめながら、導入・展開・終末における児童生徒の具体的な姿を描きます。
- ・児童生徒の心の動きに即し、ねらいに迫るための基本発問と中心発問を考えます。  
その際、児童生徒の発言を予想し、深めるための発問を考えておくようにします。  
指導事例の各枠に記述されている内容はもちろんのこと、本時のねらいとして具体化された過程を読み取って、自分の実践に生かしてください。

#### **4 学習指導過程について**

学習指導過程は、児童生徒にねらいとする道徳的価値について自覚を深めるための手順を示すものです。実際の指導に当たっては、学習指導過程の構成が極めて重要な意味をもちます。基本的には、導入・展開（前段・後段）・終末の各段階を設定します。

**導入** 主題に対する児童生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、学級全体に向かって動機付ける段階です。

- ・ねらいとする道徳的価値への方向付けをします。
- ・使用する資料への効果的な導入を工夫します。

**展開** 中心となる資料を提示して、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深める段階です。

- ・ねらいとする道徳的価値の追求，把握ができるようにします。
- ・把握した価値を自己の生き方と結びつけ，価値の一般化を図ります。

**終末** 1時間の授業のまとめをする段階であり、ねらいとする道徳的価値の確認を図り、今後の発展につなぐ段階です。

- ・ねらいとする価値について教師がまとめたり整理したりすることで1時間の総括をします。
- ・教師や地域の人材等の説話を積極的に取り入れるなどして，児童生徒の心にくい入るよう配慮します。

発問は、児童生徒の思考を促し、ねらいを達成するためにどうしても欠くことができない場面に応じて組むことが大切です。その際、ねらいを達成するために必要な道筋をつけていく一貫性のある問いかけを考えることが重要です。本書では、学習指導過程において、欠くことのできない基本発問を ，本時の課題を追求する上で中核となる中心発問を で表記しました。

指導・援助では、授業を進めるうえで留意することを具体的に述べ、ねらいとする価値に迫るよう配慮しました。特に、児童生徒の反応によって、より深く追求していくための補助発問等を記述するようにしました。